



今木啓一郎の 古今東西

Vol. 13
2019年
夏号

発行人 今木啓一郎 / 〒501-0222 瑞穂市別府438-1 ☎058-327-6331 (2019年8月8日発行)

三人の赤ちゃんが 一斉に泣き始めたら...



三人の赤ちゃんが泣き始めたら、授乳したり、泣きやむまであやしたり、おむつの交換にお風呂などの世話。加えて家事などにより睡眠時間が1日1時間という過酷な三つ子の育児を懸命に続けてクタクタに疲れた母親が、うつと思われる状態に陥り、正常な判断ができなく、泣き声に追い詰められ、生後11カ月の次男を床にたたきつけて死なせてしまった昨年1月愛知県豊田市で起きた傷害致死事件において、今年3月その母親に実刑判決が言い渡されたこともあり、この事件はテレビ、新聞報道で大きく取り上げられました。双子や三つ子などのいわゆる“多胎児”は、不妊治療が一般的に普及してきた80年代後半と比べ、およそ1.5倍に増えているとのこと。そして、多胎家庭における虐待死亡事案の

発生頻度は、単胎家庭いわゆる1人で生まれてきた子どもとの家庭と比べると4倍を上回る。この研究結果を新聞記事や報道で目にし、大変危惧しているところ。そこで、当市の現状を確認・把握し、過酷な育児による産うつ

年度	多胎児数(世帯)	新生児数
平成27年度	18人(9世帯)	662人
平成28年度	14人(7世帯)	575人
平成29年度	12人(6世帯)	565人
平成30年度	14人(7世帯)	587人
平成31年度	妊婦を含む16人(8世帯)	未確定

人口動態調査(平成29年)によれば、多胎児の出生率は、約2.0%。新生児50人に1人が多胎児

瑞穂市の多胎児数(世帯)の推移

や児童虐待を防ぐためには、多胎児の妊娠期から産後、育児期まで切れ目のない支援が必要と考え次の提案を致しました。

◆ 妊婦だけではなく、夫やその家族も多胎の妊娠・出産・育児について学び、学ぶことで家族ぐるみで備えることができる。また、先輩ママ・パパや境遇が同じ多胎妊娠中のママ、地域の保健師などと出会うことで、育児中の孤立感を防ぐ効果が期待されている一般社団法人日本多胎支援協会(JAMBA)が全国に広めている多胎ファミリー教室の開催。

◆ 豊田市の母親は、事件が起きる前に市や保健師からファミリーサポート制度を紹介されたが、利用手続きのために乳児3人を連れて外出することが難しく、利用できなかったといわれています。そこで、外出の難しい多胎育児の家庭には、介護と同様に訪問型支援が有効であると考え、所得制限なく一定の期間無料で利用できる産前産後ヘルパー制度の導入。



穂積駅前 のより一層の 渋滞緩和を目指して

■ 旧駅南公民館が解体され、駅前再開発の大きな見える化がなされ、多くの市民がその跡地利用に関心が向いている。また、ワイワイ会議でも多くの意見が出ています。市の考えは。



旧駅南公民館跡地

答 臨時の送迎車専用駐車場とする整備計画を検討する。(総務部長)

■ 南口の格安チケット販売店付近の横断歩道において、駅やバス停などに向かう学

生、一般の方の歩行者の動線と駅前ロータリーに出入りする自動車の動線とが重なり、駅南ロータリー内外での渋滞や安全性に疑問を感じ、その課題を解決する1つの方策として、現在の朝日大学スクールバスのバス停と岐阜バス大野穂積線、近鉄バス安八穂積線のバス停の位置を入れ替える考えは。

答 歩道が狭い部分に関して、広げるかどうか検討している。バスの乗降場の入れ替えというものも大変有効な方策であると思われるので、改善に向けて関係行政機関やバス事業者との協議を実施していきたい。(都市整備部長)

■ 北口については、既存市営時間貸駐車場の壁の一部撤去、未利用地の整備などを質疑。



通行者の安全確保

■ 交通量の多い駅北口、南口周辺は、自転車・歩行者が安心して通行できる道路環境が特に求められます。

駅周辺の道路は、基本的に時速30km規制ですが、現状は、自転車・歩行者の通行量が多い中でも、通過速度が、時速37〜40kmと速いスピードで走行。さらに、自動車、対向車がない時や交通量が減る時は、時速50km程で走行する自動車の存在には大変危険を感じます。ゾーン30を設定する考えは。

答 ゾーン30の正式な定義上になると、ハンプをつけたり道を狭めたりと、駅周辺住民の方々の環境も大きく左右することになる。様々な問題があるため、十分な時間をとって考えたい。(企画部長)



出典画像: 宇部市公式サイトより